教育部会用自己点検・評価報告書（様式１）

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：健康･スポーツ科学
部会長名：前田　正登
作成者名：前田　正登

概要（2000 字）

【授業の概要について】

平成 27 年度の健康・スポーツ科学教育部会は，人間発達環境学研究科 18 名（内 1 名は後期から），海事科学研究科 2 名および保健学研究科 7 名，合計 27 名の構成であった。健康・スポーツ科学教育部会としては，「健康・スポーツ科学実習Ⅰ」，「健康・スポーツ科学実習Ⅱ」，及び「健康・スポーツ科学講義」の 3 科目を開設している。健康･スポーツ科学は，身体と健康･運動に関する学問を学際的な視野のもとで総合化した新しい総合人間科学であり，開設されている 3 科目の実習及び講義を通して，身体運動と人体の機能･能力との関わりについての知識，安全で効果的かつ効率のよい身体運動について，及び生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための知識と実践能力を習得することを目標にしている。

健康・スポーツ科学実習Ⅰは，全学共通授業科目として，学部ごとに月曜から木曜日まで 12 の曜限枠を設定（一部複数学部から構成）し，1 枠あたり 3～6 クラス（コース），計 54 コースとして前期に開講している。一方，健康・スポーツ科学実習Ⅱは，実習Ⅰと同様に，後期月曜から木曜日まで 9 の曜限枠を設定し，計 36 コースを開講している。実習Ⅰ及び実習Ⅱでは，教育効果，安全性の確保，教場の条件などから，最大限 1 クラス 40 名を目安にしている。健康･スポーツ科学実習の理念・シラバス・評価等について担当教員のすべてが共通の観点を持つために，健康・スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱガイダンス資料（教員用）を作成し，各教員の専門性を活かしながら効果的な実習を展開している。また，第 1 回目の授業ガイダンスで，ガイダンス資料をもとに，健康・スポーツ科学の学習目標，及び当該科目の目標，成績評価の方法などを受講学生に周知している。

健康・スポーツ科学講義は，前期 3 枠，後期 3 枠として開講し，14 名の講義担当教員が生活習慣病，生活機能病，健康に関わる様々な行動（喫煙行動，飲酒・薬物乱用行動，性行動など），メンタルヘルス，母子保健，環境保健，あるいは，スポーツ傷害など，テーマ別に講義している。また，講義担当者を中心に教科書を執筆し，それをもとに共通の内容が提供できるように工夫している。さらに，保健管理センター教員との連携でエイズ教育に関する内容も提供し，この分野に関する啓蒙を実施してきている。

【今年度工夫した点】

(1) 実習を対象にしたピアレビューの実施

本年度は，全学共通教育部として行っているピアレビューを実施する順番であったこともあり，過去 5 回ベストティーチャー賞を受賞された非常勤講師の伊藤克広（兵庫県立大学）先生の授業（健康･スポーツ科学実習Ⅱ（ニュースポーツ）：海事科学部及び農学部指定枠）を対象に行った。当教育部会にとってだけでなく，共通教育としても非常勤講師が担当する科目を対象としたのは今回が初めての試みであった。当日は，大野国際教養教育院長をはじめ，評価・FD 専門委員として加藤教授ほか 4 名，及び健康・スポーツ科学教育部会から 6 名の参観を得て実施された。参観者からは「わくわくする授業でこのような時間があると学生も心身がほぐれる」，「健康・スポーツ科学は運動不足やストレスの解消だけでなく、他学生との人間関係構築にもつながると思う。ぜひ全学生に必修化してはどうでしょうか。」など，実習授業に好意的な意見が多く寄せられた

が，「更衣室に十分なスペースと温水シャワーを整備してはどうか」，「ハンドボールコート外の雑草も処理しておいた方がよい」といった授業環境を改善すべきとの意見も寄せられ，昨年に引き続き，極めて有意義なピアレビューが実施できた。
(2) FD 研修会の実施
3 月 16 日(水)に，平成 27 年度神戸大学全学共通教育部健康・スポーツ科学実習 FD 研修会兼オリエンテーションを開催した。出席者は藤田機構長，大野院長，専任教員 6 名，非常勤教員 12 名および技術補佐員の計 20 名であった。はじめに，部会長前田より「神戸大学における健康･スポーツ科学－組織改編と部会独自の取り組み－」の講演があった。続いて，藤田機構長および大野院長より，グローバル化時代の神戸大学の教育についておよび神戸大学の全学共通教育についての講演をいただいた。本年度は FD 推進講演会として，甲南大学鵤木千加子教授による「スポーツ実習授業において障害を抱える学生を受け入れる環境整備の取り組み」の講演をいただいき，本学キャンパスライフ支援センター村中泰子准教授にもご意見をいただきながら，本テーマについて意見交換を行った。最近，様々に障害を抱えて入学してくる学生が増えてきており，授業を行うにあたっては，実習に限らず対応に苦慮している現状がある。そのような背景のもと，この問題に積極的に取り組まれ，その実践例について拝聴できたことは極めて有意義であり，今後の当部会の取り組みに非常に参考になるものであった。
また FD 講演会の後，次年度に向けてのオリエンテーションを，配付した「平成 28 年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス資料（教員用)」に沿って行った。
【改善しようと努めた点】
学生更衣室や体育館玄関，トイレをも含む各運動施設，特に，人工芝に新装されたグラウンドやテニスコートの丁寧な使用と設備の維持管理。また昨年度に引き続き，貴重品ロッカー使用の喚起を軸に，実習授業前後の盗難防止に努めた。
【優れていると思われる点】
法学部および経営学部，医学部医学科を除く学生（男子 1243 名，女子 762 名，合計 2025 名）を対象に体力テストを実施した。1 年次生の約 75%の現在の体力を掌握できたことは，実習授業を行っていく上で貴重な資料となるだけでなく，学生自身にも自分の身体を知ることにもなり有益であった。
【改善すべき点】
諸施設の老朽化で修繕を要する個所が年々増えている。特に，多くの教員から第 2 体育館の雨漏りに関する苦情や改善を求める声が上がっており，できる限り改善する方向で対応する必要がある。

教育部会用自己点検・評価シート（様式１）

<u>項目・観点ごとの記述</u>

<u>基準５　教育内容及び方法</u>

５－１【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ，それに基づいて教育課程が体系的に編成されており，その内容，水準が授与される学位名において適切であること。】

５－１－③：　教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に配慮しているか。

観点に係る状況（150 字以上）
実習においては，学生の選好に応じてスポーツ種目が選べるようになっており，また，昨今の子どもの体力の 2 極化問題を考慮して，学生自らが積極的に健康・体力の維持増進に取り組めるよう授業の中で体力テストを実施している。講義においても，学生生活として身近な問題となる「ライフスタイルと健康」や「食と健康」,「睡眠と健康」「ストレスと健康」,「環境と健康」,「エイズ予防」を講義のテーマに取り上げ，これらの分野に関する啓蒙を実施してきている。
根拠資料 ● 平成 27 年度 シラバス ● 健康・スポーツ科学 実習ノート ● 基礎としての健康科学 / 神戸大学大学院人間発達環境学研究科　健康科学研究会編 ： 大修館書店，2007，ISBN:978-4-469-26630-6

５－２【教育課程を展開するにふさわしい授業形態，学習指導法等が整備されていること。】

５－２－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

観点に係る状況（150 字以上）
健康・スポーツ科学実習においては，歩数計や運動時の心拍数を計測することにより，運動時エネルギー消費や運動の生理的負担等を実測させている。また，各スポーツ種目を教材とした実習では，グループに分けての指導を実施し，その場合は TA を活用して指導が充実するよう配慮している。さらに，実習・講義ともビデオ・DVD 等を活用して，学生の理解が深まるよう工夫している。
根拠資料 ● 健康・スポーツ科学 実習ノート

５－２－②：　単位の実質化への配慮がなされているか。

観点に係る状況（100 字以上）
実習の授業では授業開始時に出席を厳格にとり，遅刻や早退についても教育部会独自の尺度で学生に対応し，厳正な評価を行っている。また,「評価の対象」や「評価の基準」を初回ガイダンス時に学生に説明し周知している。
根拠資料 ● 平成 27 年度健康・スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱガイダンス資料（教員用） ● 履修カード

５－２－③：　適切なシラバスが作成され，活用されているか。

観点に係る状況（50 字以上）
健康・スポーツ科学実習Ⅰ，及び，ほとんどの健康・スポーツ科学講義は，授業内容の共通化を図るため，シラバスを共通としている。なお，昨年度より実習Ⅰのシラバスは，学習目標はもちろん内容も共通化を図るとともに，実態に即して各スポーツ種目に応じた内容も盛り込めるように一部を自由化したものとなっている。

根拠資料 ● 平成 27 年度シラバス ● 平成 27 年度健康・スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱガイダンス資料（教員用）

５－２－④：　基礎学力不足の学生への配慮等が行われているか。

観点に係る状況（100 字以上） 実習授業では，授業運営が困難になるほど学生の基礎学力不足を感じる場面はほとんどなく，むしろ，体力面で受講している学生の平均レベルよりも著しく劣る学生がいることがある。健康・スポーツ科学実習Ⅰでは，そのような学生でもできる身体運動を「実習ノート」により紹介し指導している。
根拠資料 ● 健康・スポーツ科学 実習ノート

５－３【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められ，それに照らして，成績評価や単位認定，卒業認定が適切に実施され，有効なものになっていること。】

５－３－②：　成績評価基準が策定され，学生に周知されており，その基準に従って，成績評価，単位認定が適切に実施されているか。

観点に係る状況（100 字以上） 健康・スポーツ科学実習の成績評価は，課題達成度，受講態度，出席状況（75%以上の出席）の 3 点を総合的に評価することにより行っている。受講学生には，毎期の初回授業で行われるガイダンスで，これらの評価観点を説明し周知している。また，同講義においてもシラバス記載の基準をガイダンスで説明し，その上で授業を進めている。
根拠資料 ● 平成 27 年度 健康・スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱガイダンス資料（教員用） ● 履修カード（学生の写真付）

５－３－③：　成績評価等の客観性，厳格性を担保するための措置が講じられているか。

観点に係る状況（100 字以上） 健康・スポーツ科学実習では，成績評価について①評価基準，②評価の対象，及び③評価の観点として，それぞれガイドラインを設けており，年度ごとに前年度末ごろに実施される健康・スポーツ科学実習オリエンテーションにて確認している。
根拠資料 ● 平成 27 年度 健康・スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱガイダンス資料（教員用）

<u>基準６　学習成果</u>

６－１【教育の目的や養成しようとする人材像に照らして，学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について，学習成果が上がっていること。】

６－１－②：　学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して，

学習成果が上がっているか。

観点に係る状況（100 字以上）
健康・スポーツ科学実習に対する学生の授業評価は良好で，総合評価が 4 点以上であるコースが大半を占める。一方，健康・スポーツ科学講義のそれはやや低く，さらなる工夫が必要であると考えられる。昨年度も同様の課題であったが，学生からの評価をどのようにして各教員の授業に反映させていくか，その仕組みの再検討が必要である。
根拠資料 ● 平成 27 年度 学生の授業評価アンケート ● 平成 27 年度 各教員の自己点検・評価

<u>基準７　施設・設備及び学生支援</u>

７－１【教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され，有効に活用されていること。】

７－１－④：　自主的学習環境が十分に整備され，効果的に利用されているか。

観点に係る状況（50 字以上）
キャンパス内で自主的に運動が行える施設は整えていないが，実習授業時には，家庭でもできる内容の運動を教材に取り上げることで，課外活動時や自宅でも実践できるように指導している。
根拠資料 ● 健康・スポーツ科学 実習ノート

７－２【学生への履修指導が適切に行われていること。また，学習や課外活動等に関する相談・助言，支援が適切に行われていること。】

７－２－①：　授業科目のガイダンスが適切に実施されているか。

観点に係る状況（100 字以上）
前期健康・スポーツ科学実習Ⅰの初回であるガイダンス時に，健康・スポーツ科学として開設している 3 科目について，必修・選択の別，卒業要件に算入できるか否かなどを説明している。また，実習授業ではスポーツ種目について選択ができるようになっているが，これも初回ガイダンス時に授業内容を説明の上，選択できるようにしている。
根拠資料 ● 平成 27 年度 健康・スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱガイダンス資料（教員用） ● 平成 27 年度 シラバス

７－２－②：　学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており，学習相談，助言，支援が適切に行われているか。
また，特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり，必要に応じて学習支援が行われているか。

観点に係る状況（100 字以上）
実習授業ではスポーツ種目について選択ができるようになっているが，提供するスポーツ種目は年度ごとに検討することとしており，前年度の学生の履修状況を勘案しながら時間割を作成する際に反映するようにしている。また，実習授業では身体運動を伴うことから，身体運動を行う際に支援が必要となる学生が履修していた場合は，当該授業に TA を優先的に配置するようにしている。
根拠資料 ● 平成 27 年度履修学生数一覧 ● 平成 27 年度健康・スポーツ科学実習時間割